

鳴 沢 村

まち・ひと・しごと創生 人口ビジョン・総合戦略

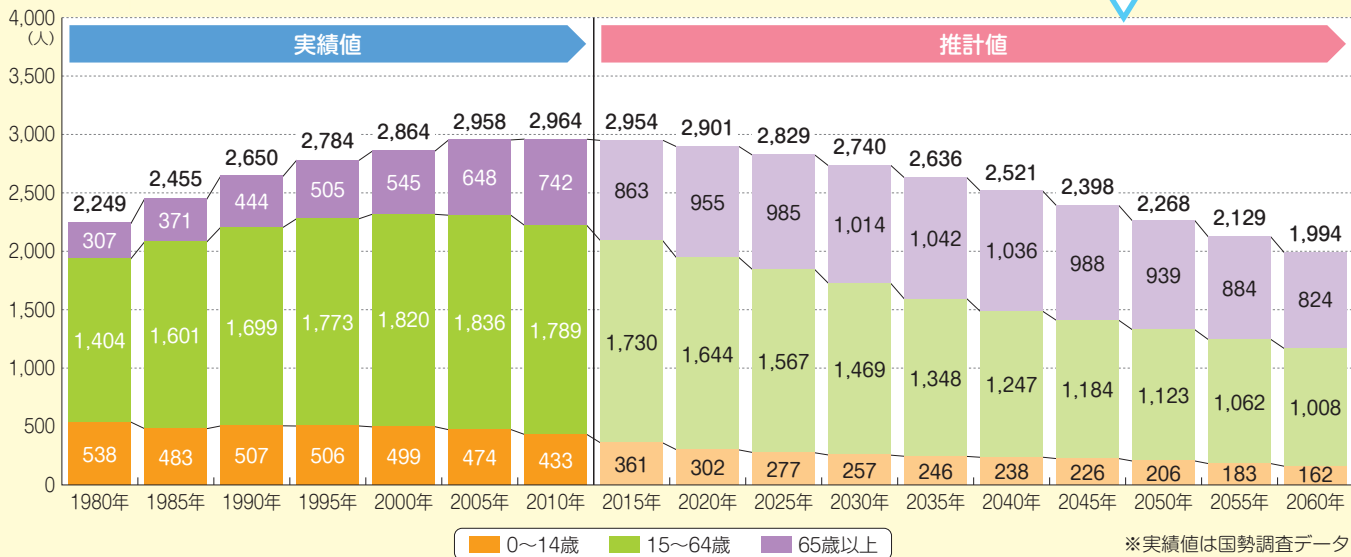
概要版

平成28年3月
鳴 沢 村

鳴沢村 人口ビジョンの概要

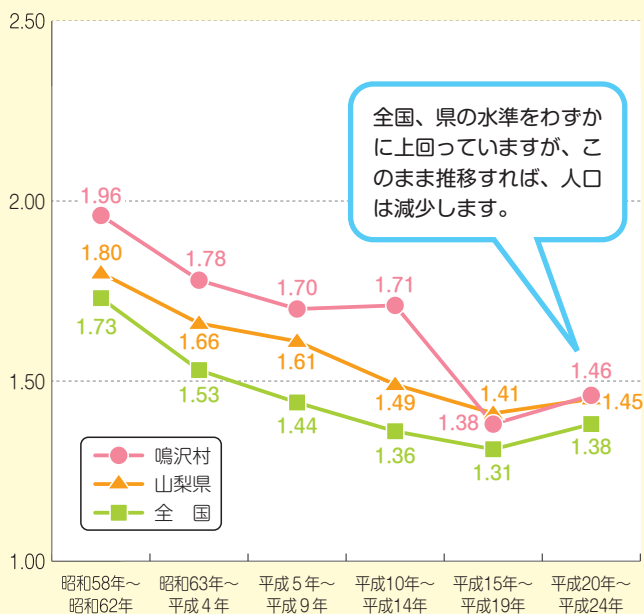
現状のまま推移すると2040年に2,521人、2060年には2,000人を割り込む1,994人まで減少するという推計結果となっています。

これまでの3世代別人口推移の実績と社人研推計※における人口推移予測

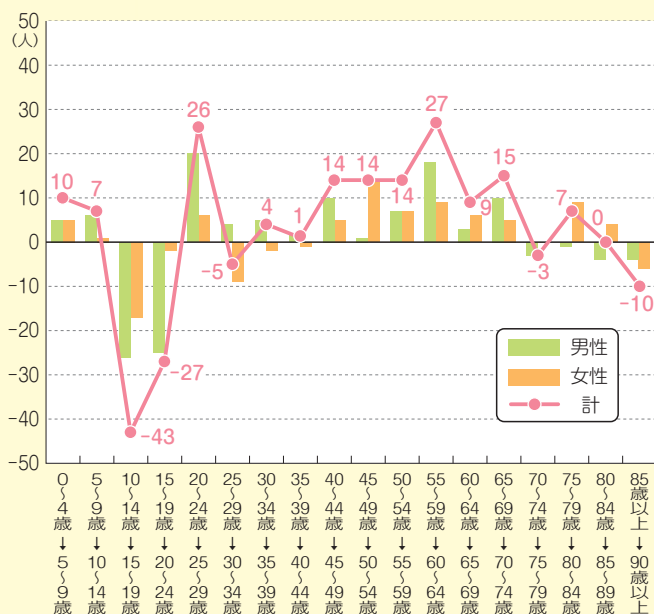


※国立社会保障・人口問題研究所が実施している人口推計で、平成22(2010)年を基準年とし、主に平成17(2005)年~22(2010)年の人口の動向を勘案し、将来の人口を推計しています。移動率は、今後全域的に縮小すると仮定されています。

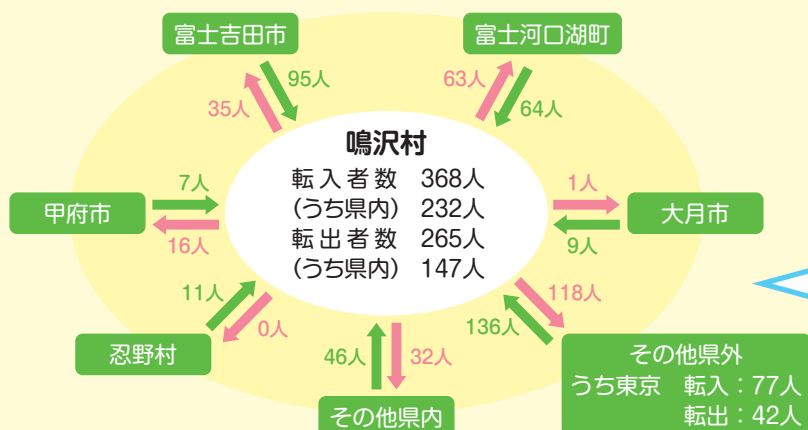
合計特殊出生率の推移



性別・年齢別純移動 (平成17年→平成22年)



近隣自治体間における人口移動 (平成17年→平成22年)

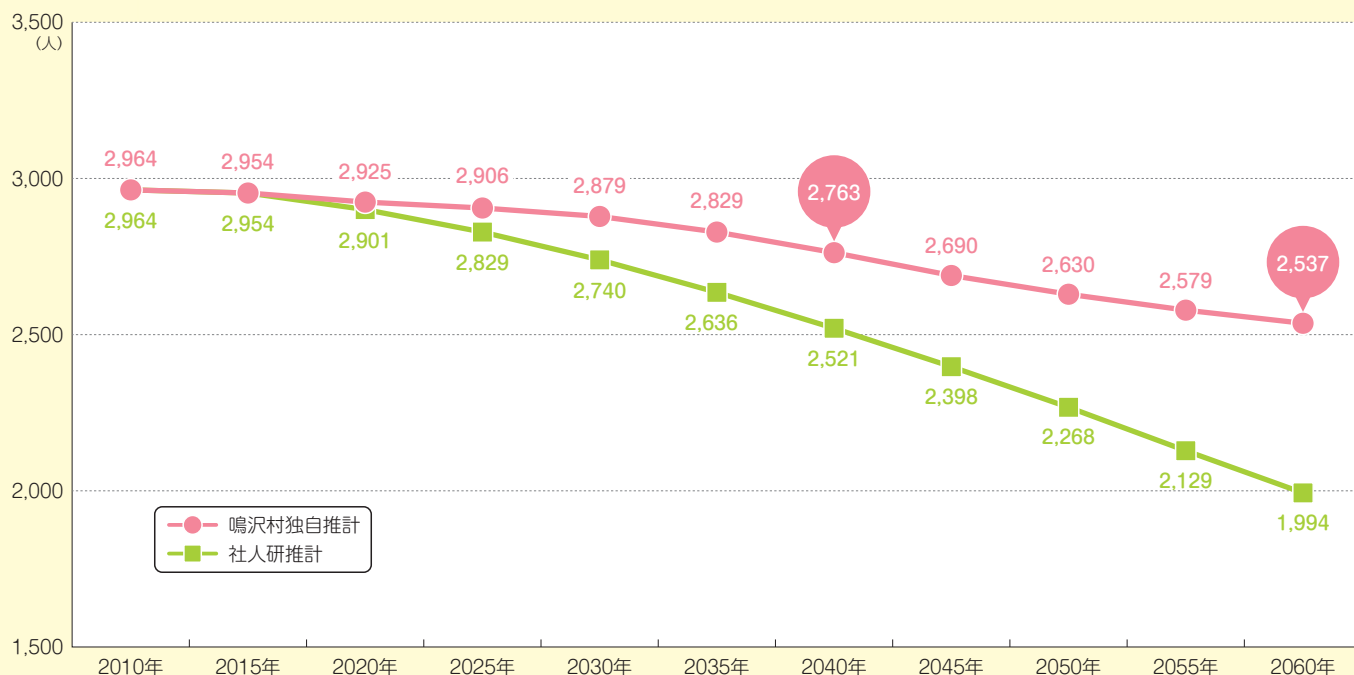


進学や就職による若年時の転出が多くなっていますが、40歳以上の転入者がそれを補っています。

県庁所在地である甲府市とでは転出超過となっていますが、それ以外の近隣自治体とでは、いずれも転入者の数が転出者を上回っています。

鳴沢村の将来人口展望

● 社人研推計と鳴沢村独自推計*による人口推移予測



*鳴沢村独自推計では、社人研推計をベースに、合計特殊出生率が平成52(2040)年までに人口置換水準(2.07)まで上昇させるものと仮定しています。それとともに2020年以降、通常の転入以外に、Uターン・Iターンの促進政策等による転入促進や、村の利便性や居住性の改善による転出抑制を図ることで定住者を増員させると仮定し、30代前半の夫婦世帯の新規移住家族の転入「3世帯/5年間毎」(5年間での社会増減が+6人)を見込みました。

上記の将来人口推計結果や、村が抱える課題、総合戦略で取り組む政策を踏まえて、鳴沢村の将来人口展望を以下のように定めました。

鳴沢村の将来人口展望

2040年に **2,700人以上の人口維持** を目指します

2060年に **2,500人以上の人口維持** を目指します



鳴沢村総合戦略の概要

総合戦略は、人口ビジョンで掲げた将来人口展望の達成をめざすべき、中長期的な目標としています。

鳴沢村では、総合戦略の実施によって、この中長期的目標が実現できる体制を整えていくとともに、来年度に改定が予定されている総合計画においても、この中長期的目標の達成を促すべく、より包括的な政策を整えていきます。

基本目標Ⅰ

鳴沢村の産業を育成し、雇用を創生する

- [施策①] 企業誘致等による雇用の創出
- [施策②] 村内産業の育成

基本目標Ⅱ

鳴沢村への新たな人の流れを創生する

- [施策③] 鳴沢村への移住者招致、定住の促進
- [施策④] 観光資源の整備と観光振興による交流人口の増大

基本目標Ⅲ

鳴沢村で産み、育てていくことにやさしい環境を創生する

- [施策⑤] 若者たちの出会いと交際の支援
- [施策⑥] 望んで産み、健やかに育てる環境の創出
- [施策⑦] 未来を担う子どもたちの教育環境の充実

基本目標Ⅳ

鳴沢村の美しい自然を守り、快適な生活環境を創生する

- [施策⑧] 便利で快適な生活環境の充実
- [施策⑨] 災害に強いむらづくり
- [施策⑩] 自然と景観の保全

将来人口展望の達成

鳴沢村の産業を育成し、雇用を創生する

- ◆若年層へのアンケート調査では、「就業機会・勤労者福祉の充実」については、「不満」又は「やや不満」という回答が3割を超えているのに対して、「満足」又は「やや満足」という回答は2割未満に留まっています（問12「鳴沢村らしさが光るにぎわいのある村づくり」の6）。
- ◆現在の鳴沢村の産業構造において、基幹産業は「製造業」であり、「生活関連サービス業、娯楽業」の就業者数も比較的多くなっていますが、上記のアンケート結果から、若年層の雇用環境は必ずしも十分なものとなっていないことがうかがえます。
- ◆村内への企業誘致や創業支援など、新しい「しごと」を創り出す体制整備などに努め、村内における新たな働く場の拡大を目指します。

KPI	重要業績評価指標 (KPI)	基準値 (H22年度)	目標値 (H32年度)
	15歳以上就業者数	1,563人	1,578人

施策①

企業誘致等による雇用の創出

- ◆雇用環境に対する実効性・即効性の高い企業誘致の実現を目指すとともに、首都圏に近接する立地と自然環境の豊かさを生かしたサテライトオフィスの開設を推進することで、村内の雇用環境を改善します。

施策②

村内産業の育成

- ◆「創業支援事業計画」を策定し、商工会や地元金融機関等の創業支援事業者と連携して、新たに事業を起こそうとしている起業家への様々な創業支援を実施します。
- ◆中小企業振興資金等利子補給などを通して、村内に所在する既存産業への支援を充実させます。
- ◆村内に所在する企業同士のマッチングを模索し、村内企業コラボレーションによる商品開発や販路開拓等を支援します。
- ◆衰退傾向にある農業への支援を充実させ、村内農家数の減少に歯止めをかけます。
- ◆地熱エネルギー等の活用を目指して、調査・研究を行います。



鳴沢村への新たな人の流れを創生する

- ◆ 鳴沢村は、ユネスコの世界文化遺産に登録された「富士山—信仰の対象と芸術の源泉」に集約される魅力ある観光資源を有しており、観光関連のサービス業は、製造業と並んで、村の主要産業の1つとすることができます。
- ◆ 「富士山」の世界文化遺産登録にともない、鳴沢村の平成26年の観光入込客数は2,328,307人と対前年比で5.0%上昇（山梨県観光入込客統計調査）しており、好機を迎えた状況にありますが、村の将来を見据えて、更なる観光入込客数の増加が求められるところです。
- ◆ 交流人口の増加は、関連産業の活性化や雇用の創出も期待されるため、「富士山」という大きな観光資源を生かした観光関連施設の整備と、既存施設の効果的な運用を図るとともに、情報発信強化や着地型観光を推進するなど、観光周遊にむけた仕組みづくりを推進します。
- ◆ また、Iターン・Uターンなどの移住・定住を促進するための各種支援策を講ずるとともに、村内にある別荘や、魅力ある観光資源を最大限に活用し、より多くの人に鳴沢村を訪れてもらうことができるよう、積極的な人的交流を推進します。

KPI	重要業績評価指標 (KPI)	基準値 (H26年度)	目標値 (H31年度)
	年間転入者数	139人	140人
	年間転出者数	125人	128人
	年間純移動数	+14人	+12人
	観光入込客数	2,328,307人	2,500,000人

施策③

鳴沢村への移住者招致、定住の促進

- ◆ 鳴沢村は、都心から90分という好立地にありながら、「富士山」の麓に広がる大自然に囲まれています。
- ◆ このような立地条件を最大限にアピールし、受け入れ体制を整備していき、Iターン・Uターンなどの移住・定住を促進していきます。
- ◆ 特に、移住・定住を促進するターゲットとしては、子育て世代を中心としたプロモーションを実施します。

施策④

観光資源の整備と観光振興による交流人口の増大

- ◆ 世界遺産「富士山」をはじめとする、村の豊かな自然や、文化財、道の駅などの観光資源を最大限に有効活用することで、より多くの観光客を呼び込みます。
- ◆ 観光案内のウェブサイトの強化やスマートフォン用のアプリの開発により、村の観光情報発信機能を強化します。
- ◆ 新たな特産品の開発支援や観光スポットを発掘・開発することにより、観光振興を図り交流人口を拡大していきます。

鳴沢村で産み、育てていくことにやさしい環境を創生する

- ◆ 鳴沢村の合計特殊出生率は1.46(平成20～24年)で、全国(1.38)や山梨県(1.45)の水準は上回ってはいるものの、その差はわずかで、現状の水準のままでは今後確実に人口は減り、より少子高齢化が進行することが見込まれます。
- ◆ 一方、若年層のアンケートでは、既婚者が理想とする子どもの平均人数は2.54人、結婚を希望している未婚者では2.34人となっており、現状の合計特殊出生率との間には大きな差があります。
- ◆ このような子育て世代の希望を満たし、より多くの家庭で、子どもを産み、育てることができるよう、子育て支援を行います。
- ◆ 親世代・子世代・孫世代のそれぞれがお互いに協力し、交わって生活していくことで、子育ての負担軽減を図りつつ各世代が生き生きと健康的に生活していけるよう、3世代同居を推進していきます。
- ◆ また、次代の鳴沢村を背負っていく世代を育むために、より一層の子どもの教育環境の充実にむけ、子どもたちが確かな判断力と豊かな心を育むことができる環境づくりを推進します。

KPI	重要業績評価指標 (KPI)	基準値 (H26年度)	目標値 (H31年度)
	出生人数	26人	25人
	合計特殊出生率	1.46	1.50

施策⑤ 若者たちの出会いと交際の支援

- ◆ 周辺の自治体と協同で、結婚を希望する若者たちの婚活イベントを開催するとともに、「富士山」周辺のレジャー施設等で若者たちの出会いと交際を支援します。

施策⑥ 望んで産み、健やかに育てる環境の創出

- ◆ 子育て世代に様々な補助を行い、育児の負担軽減を図ることにより、子育てをしやすい環境を創出します。
- ◆ 子どもたちが健康的に、のびのびと体を動かせる生活環境を提供します。
- ◆ 子ども医療費の助成金支給の対象年齢を、現行の中学3年生から高校3年生までに引き上げます。

施策⑦ 未来を担う子どもたちの教育環境の充実

- ◆ 家族形態の変容や、価値観、ライフスタイルの多様化等、教育を取り巻く環境は日々変化しています。このような現状の中、社会全体で安心して子育てできる教育環境整備を行います。



鳴沢村の美しい自然を守り、快適な生活環境を創生する

- ◆ 村民へのアンケートでは、村全体の印象について、「あなたにとって、鳴沢村は住みよい村ですか」という質問を、若年層調査と高齢層調査の両方で行っていますが、若年層調査で「住みよい」と回答した人は42.3%、「どちらかといえば住みよい」と回答した人は24.5%、高齢層調査で「住みよい」と回答した人は41.8%、「どちらかといえば住みよい」と回答した人は28.7%でした。
- ◆ 村民の満足度は比較的高い状態にあるということが出来ますが、若年層では、「住みにくい」又は「どちらかといえば住みにくい」と回答した人が1割を超えており、若年者の居住環境としては、まだ改善の余地があるようです。
- ◆ 鳴沢村では、今あるインフラ設備を継続的に維持できるように、適正な管理保全を継続実施するとともに、次代の村民に配慮した、新たな情報配信システムの導入も推進します。
- ◆ また同時に、「富士山」に集約される美しい自然環境を永続的に保全していくとともに、近い将来にその可能性が指摘されている富士山の噴火等の災害への備えも充実させ、災害に強いむらづくりを目指します。

KPI	重要業績評価指標 (KPI)	基準値 (H26年度)	目標値 (H31年度)
	鳴沢村が「住みよい」と考える人 (村民アンケート調査)	若年層：42.3% 高齢層：41.8%	50.0%

施策⑧

便利で快適な生活環境の充実

- ◆ 既にある施設やインフラ等の適正管理を継続するとともに、生活の利便性を高める情報配信システムの導入なども推進して、村民に快適な生活を提供します。
- ◆ 富士北麓市町村で連携してコミュニティFM局を開設し、近隣市町村を含めた地域情報や災害情報等を発信します。
- ◆ 地域の医療体制の充実や在宅医療の推進等の施策として、開業医(診療所・クリニック等)の誘致にむけての取り組みを検討します。

施策⑨

災害に強いむらづくり

- ◆ 自然災害(地震・富士山噴火)に対して、防災・減災対策を行い、安心してらせるむらづくりを行います。

施策⑩

自然と景観の保全

- ◆ 鳴沢村の美しい景観づくりの取り組みの中心となる「景観リーダー」等の人材育成や、街並みに配慮した建物・工作物等の外観修景などの修景事業に対する支援等を行い、美しい鳴沢村の景観を守ります。